

6月「考えることは自由だ」 アントニア・シュルト

1.

子供の頃から頭の中で時間を過ごすことがすごく好きでした。「つまらない」か「ただの時間潰し」などと思う人も少なくないかもしれませんが、私にはそうではないです。なぜなら、頭の中は何でもできるし、どこでも行けるし、考えは自分のものだけで、「考えることは自由」だからです。実は、この「考えることは自由だ」と同じタイトルで、有名なドイツの民謡があり、最近よくその歌の意味やパワーを考えることがあります。

2.

1780年、「Die Gedanken sind frei」というその歌の歌詞がチラシに印刷され、撒かれましたが、メロディーが1810年～1820年の間に作曲されていたそうです。

歴史的にこの歌は、政治的抑圧などの時代に自由願望を表す歌として歌われたため、旧東ドイツの独裁政権に歌うことが禁じられていました。そういう背景があるため、ドイツ人にとってとても意味深長な歌です。例えば、ゾフィー・ショルというナチス・ドイツを非暴力によって抵抗した人物が、この歌をヒトラーの批判で入牢された父親に刑務所の前に立って、レコーダーで演奏したという話もあります。

6月 「「考えることは自由だ」 アントニア・シュルト

3.

少し歌詞の一節をみると、ゾフィー・ショルが当時メロディーだけで伝えた重要なメッセージが分かると思います。



4.

「私を閉じ込めて置こうと
この暗い牢獄の中に
そんなは皆全く
無駄な骨折りだ
なぜなら私の考えることは
格子など打ち壊し
壁を真っ二つにするだから
考えることは自由だ」

6月 「「考えることは自由だ」 アントニア・シュルト

5.

要するに、考えが誰も縛れ、掴めないものとして考えてみたら、心の平安という状態にたどり着けます。

今のコロナの中、それはとても大事な、人を救う力があるようなメッセージだと思います。会いたい人に会うことや行きたい場所に行くことを実際に自粛しても、頭の中の自由には限定がないと意識すれば、強力な道具を手に入り、だれでもと会ったり、どこでも行ったりできます。私なら、まだドイツにいる犬と一緒にこの大好きな山々に登ることなどをよく想像したりします。

こういう人間しかできないわざを持っていることに感謝しています。